



ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 110

～高齢や 認知は皆で 育て守る～

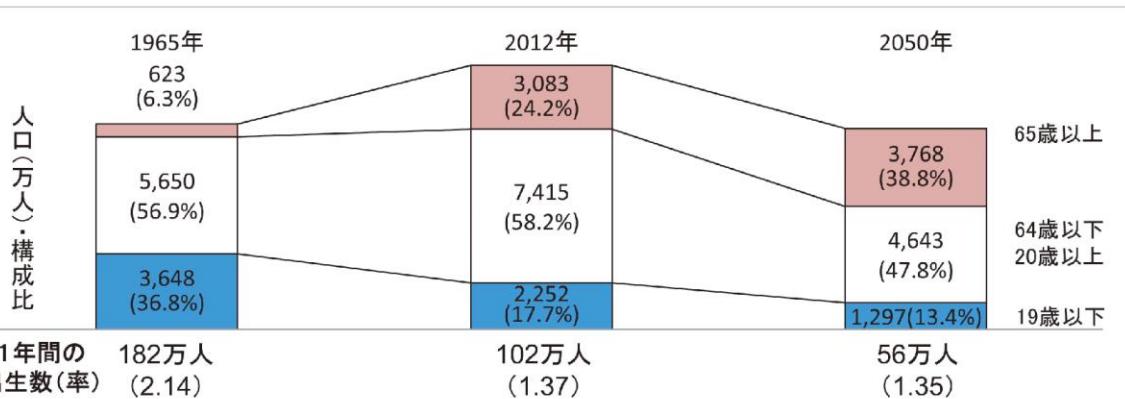
<http://pianomed-mr.jp/>

日本では 65歳以上の高齢者の人口およびその割合が増え続けており、大きな問題となっている。また、先日のニュースで、認知症が急増している報道もみられた。将来に向けて、これらの対応を考えていかねばならない。

今回は、現在日本が抱える人口問題や高齢者医療の問題について触れてみたいと思う。

厚生労働省から発表された統計予測についてリサーチを行った。65歳以上の高齢者的人口は、2025年には3657万人(30.3%)となり、2042年には3878万人とピークを迎えるであろうと予想されている。

その中で、2055年には高齢者人口が3626万人(39.4%)にまで至るという。この4割という割合は、今まで地球上でどの国も経験したことがない高齢社会となる。わが国における人口予想



一方、19歳以下の割合を図1に示した。高齢者の割合は、85年間に6.3%から38.8%まで約6倍に増えるとされる。



このようないくつかの状況で、認知症への対応が大切となつてゐる。図2をご覧いただきたい。認知症の患者が280万人といふ場合、実際には、潜在的な患者が存在している。発症が280万人であれば、軽症が160万人、予備軍が380万人も、その後に隠れているのだ。これは、認知症だけでは

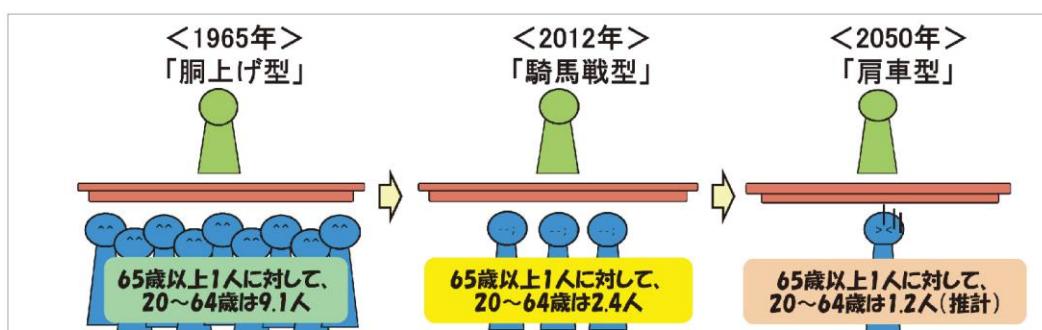
このようないくつかの状況で、認知症への対応が大切となつてゐる。図2をご覧いただきたい。認知症の患者が280万人といふ場合、実際には、潜在的な患者が存在している。発症が280万人であれば、軽症が160万人、予備軍が380万人も、その後に隠れているのだ。これは、認知症だけではなく、糖尿病やメタボ、ロコモなどにもあてはまる。このように、臨床的に症状や検査データが明確でなくとも、いろいろな病気には予備軍とか、潜在レベルの状態があることを知つておきたい。

認知症はどうほど増えていくのであろうか。図3に患者数の予測を示した。「認知症高齢者の日常生活自立度」II以上の高齢者は、このように増えていく。留意しておきたいのは、この背



景には、数倍の予備軍の存在があることだ。2025年には、470～480万人（12.8%）まで激増していくとの予想がある。これらは以前に発表されたデータである。

図4



厚労省は、以上のこの推計を盛り込んだ認知症対策拡充のための国家戦略案を、自民党の厚労部会などの合同会議に提示した。このポイントについて、簡単に表にまとめたので参考にされたい。

これから日本の将来を見据えてみたい。社会保障については、図4のように、急速な高齢化のため、胴上げ型→騎馬戦型→肩車型と劇的に変革していく時代である。一人の若者が一人の高齢者を支えるといふ厳しい社会の到来が近づいている。そのためには、社会保障改革によって、支える人々を少しでも増やしていく方策を考慮した社会保障改革が大切となるだろう。

1月上旬に厚生労働省から発表されたレポートによると、将来は、65歳以上の5人に1人が、認知症になると推計されている。

国家戦略

これから日本の将来を見据えてみたい。社会保障については、図4のように、急速な高齢化のため、胴上げ型→騎馬戦型→肩車型と劇的に変革していく時代である。一人の若者が一人の高齢者を支えるといふ厳しい社会の到来が近づいている。そのためには、社会保障改革によって、支える人々を少しでも増やしていく方策を考慮した社会保障改革が大切となるだろう。

敬する日野原重明先生が尊いのであるうか。いいのであるうか。一つのヒントが、私が尊

表 認知症国家戦略案のポイント

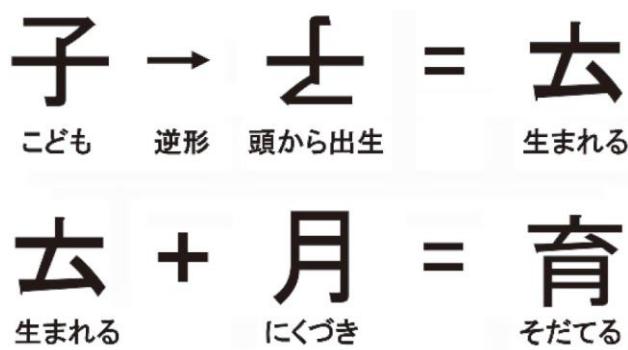
1. 医療・介護
 - ・発症初期を支援するチームを全市町村に整備していく
 - ・2020年頃までに日本発の根治薬の治験
2. 若年性認知症支援
 - ・全都道府県に担当者を配置した相談窓口の設置（17年度末）
 - ・居場所づくりや就労・社会参加を支援する
3. 普及啓発・本人視点の重視
 - ・理解深める全国キャンペーンや学校教育の実施
 - ・対策づくりや評価に認知症の人や家族が参加
4. 生活支援
 - ・行方不明者の早期発見のための見守りネットワークづくり
 - ・詐欺などの消費者被害の防止



図5

漢字「育」の成り立ちは、育（子）+月（ニク）である（図6）。云は、赤子が頭から（逆に）生まれる様を表し、漢字「子」の逆形を示す。月は肉付きよく太り、立派に育つという意味合いである。

「新老人の会」の活動でのコメントに含まれていると思われる。先生は「子供は親が育て成人は社会が育てる。そして老人になると自分が自分を育てる」と述べられた。



（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）